

【ミニ企画】

大学3年生が童心に帰って 小学1年生の筆箱を再現してみた！

はじめに

突然だが、あなたは小学1年生の時の筆箱を覚えているだろうか？マグネット式で上下どちらも開き、鉛筆や消しゴムを入れる場所が決まっていたり、鉛筆削りがついていたりするものではなかっただろうか？小学校に入学したての頃は多くの生徒がこの形の筆箱を使用していたものだが、いつの間にかみんなファスナー付きのペンポーチへと変わり、あの筆箱はすっかり姿を見なくなってしまう。そこで、今回は大学3年生となった筆者が小学1年生の筆箱を改めて再現してみることにした。私が小学1年生当時、実際に使っていた筆箱は残念ながら処分してしまったので比較することはできないが、当時と変化した点も発見したい。

購入品一覧

今回購入したものは以下の5点である。

- **筆箱**
- **鉛筆3本入り(2B)**
- **赤鉛筆2本入り**
- **消しゴム**
- **直定規(15cm)**



全てショッピングセンターの文房具売り場で購入した。

マグネット式の筆箱の売り場をまじまじと観察したのは初めての体験だったが、どの商品も同じように見えて意外とピンからキリまであることが分かった。大体700円程度が相場のようだが、機能付きの物はそれよりも高く、中には1000円を超えるものあった。今回購入した筆箱は、側面についたダイヤルを回すことで筆箱が開かなくなり、中身の飛び出しを防止する「アルロック」という機能がついたものだ。また、軽くてコンパクトなため。ランドセルのポケットに入れたり、横向きに入れることもできるという。こちらは800円+税で購入した。

鉛筆、赤鉛筆も様々な種類があったが、パッと見てかわいいキャラクター柄のものにした。鉛筆の濃さについては、私が小学生の時に2Bを推奨されていたので2Bを選んだ。

定規と消しゴムはシンプルに小学生でも使いやすそうなものを選んだ。

いざ、再現！



↑アルロック





おなじみの鉛筆を差し込む部分には鉛筆を削らないと入れることが出来なかつたので、付属の鉛筆削りで何年かぶりに鉛筆を削って入れた。鉛筆を削った時においが昔懐かしく、心地よかつた。消しゴムが筆箱の消しゴムを入れるスペースよりも大きくて、きちんと入れることはできなかつたが、消しゴムを使ってゆくうちに筆箱に馴染むようにならう。

なるはづだ。裏面には直定規だけを入れたが、本来ならば分度器や三角定規なども一緒に入れることができるようだ。

終わりに

マグネット式の筆箱は私が小学生の頃からは大きく変化はしていないようだが、軽量化されたり、ランドセルの中で場所を取らないようにコンパクトになつたり、「アルロック」などの新たな機能が付いているものも生まれていた。

私が小学生の頃よりキャラクターも増え、文房具の種類も多くなっていると考えられる。売り場に並ぶ数多くの文房具の中から自分の好きなものを選ぶ時間は、小学生たちにとって非常に楽しいものとなるだろう。

大学生が小学生向け文房具の売り場で真剣に買い物をする光景は周りからどのように映っていたかわからないが、(恥ずかしいので考えることも控えたい)非常に懐かしさを感じ、楽しい体験が出来た。せっかく懐かしい筆箱が再現できたので、これからはシャープペンシルやボールペンだけでなく、たまに童心に帰ってこちらの筆箱も使いたいと思う。

(本稿は無記名原稿)

[本稿書誌情報]

『文具に関する論考と企画：奈良女子大学文具ゼミ 2020』

[2020 年度「文化社会学演習」WEB 版報告書] <https://bungu-narajo.org/>

2020 年 8 月 1 日 編集・発行 国立大学法人奈良女子大学文学部

人文社会学科文化メディア学コース小川伸彦研究室編

〒630-8506 奈良市北魚屋西町 E-mail ogawanobuhiko@cc.nara-wu.ac.jp